

江東豊洲病院
コラム
(毎月発行)

昭和大学江東豊洲病院 こども病院だより

～女性とこどもに優しい病院～

第6回 扁桃って何？

扁桃腺の役割

幼稚園や小学校の健康診断などで、**お子さんの扁桃腺が大きい**と言われたことはありませんか？皆さんが扁桃腺と言われているものは正式には口蓋扁桃という名前で、それ以外にも鼻の奥の壁（上咽頭）にある咽頭扁桃（アデノイド）、喉の付け根にある舌根扁桃、鼻と耳をつなぐ管（耳管）の周囲にある耳管扁桃などがあり、鼻から喉に変えて輪を作るように存在していてこれを合わせてWaldeyer咽頭輪（ワルダイエル）と呼ばれています。

では実際に何をしているかという、特に全身的な免疫機能が未熟な乳児期ぐらいまでの間で、鼻や口から入ってくる病原菌をキャッチしてやっつける、免疫のバリアーとしての役割があると言われ、全身の免疫機能が発達してくると徐々に役割を失います。アデノイドと口蓋扁桃は年齢によって大きさが変化して

小学校低学年ぐらいがピークで、アデノイドは成人ではほぼなくなり、口蓋扁桃も喉の粘膜に隠れるぐらい小さくなっていくことが多いです。お子さんの場合、大きいだけで症状がなければ問題ありませんが、鼻から喉までの空気の通り道に比べて扁桃が大きい場合は様々な症状がでてきますので治療の対象となります。

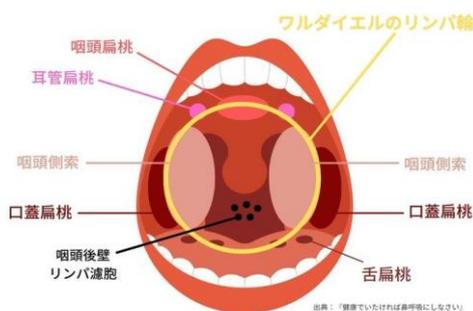
扁桃腺が大きいことによる 症状は何？

夜間のいびきや無呼吸が生じて睡眠時無呼吸症候群になる可能性があります。大人は顎の形、体重増加、喉の筋力低下など様々な原因により、根本的に治療をすることが難しいケースが多いですが、お子さんの場合はほぼ口蓋扁桃肥大とアデノイド肥大が無呼吸の原因です。重症な場合は胸が陥没するように呼吸して、胸の形が変形してしまうこともあります。また口蓋扁桃が口の真ん中でくっつくぐらいの大きさになった場合は、食べ物を飲みこもうとしても扁桃が邪魔でうまく飲み込めず食事を食べるのが極端に遅かったり、そのため体重が増えないなどの原因になることもあります。それ以外にもアデノイドが大きく鼻の後ろを狭くすることで口呼吸ばかりすることで、顎の発育に影響してしまうことなども言われています。



耳鼻咽喉科 責任者
藤居 直和（ふじい なおかず）
好きな食べ物：焼き魚
出身地：大分県

治療は鼻炎症状などがあれば、それを治療して改善するかを確認します。しかし物理的な大きさが原因であった場合、ピークの年齢であれば成長を待つ選択肢もありますが、3～4歳であればまだ悪化する可能性も考えられるため全身麻酔での手術的な摘出を考える必要があります。手術した場合に免疫の低下を心配されると思いますが、症状の出やすい3～4歳以降であれば免疫機能の低下はないと言われています。気になる症状がありましたら、かかりつけの先生を含め、耳鼻咽喉科でご相談してください。



こどもセンターにご入院される方へ

当院のこどもセンターは、「付き添い入院」が可能です。また、保育士も常勤しており安心して療養が可能です。また、小児内科をはじめ、小児外科・整形外科・形成外科・耳鼻咽喉科・歯科口腔外科・眼科などで入院されています。

こどもセンターで行っている付き添い入院について教えてください

お子様の病気やケガはご家族にとっても心配なものです。お子様の入院に伴い慣れない環境で付き添われるご家族も心身共に疲労されていることと存じます。私たち看護師は入院中のお子様はもちろん、傍でお子様を支えるご家族へも安心していただけるようケアを提供いたします。これまで「**入院中の様子を見て退院後の生活のイメージができた**」・「**そばに居られて、ただただ安心した**」というお声を頂いています。



新型コロナウイルス感染症が流行しています、こどもセンターに入院されるお子さまに対して気を付けていることはどんなことですか？

新型コロナウイルス感染症から無防備なお子様を守るため、新型コロナウイルス感染症対策として、「**持ち込まない**」・「**広げない**」を徹底しています。入院前PCR検査の徹底のうえ、緊急入院の場合は抗原検査・PCR検査両方を実施するとともに、一定期間隔離をお願いしています。面会の方へもワクチン接種証明、抗原又はPCR陰性証明をお持ちの方のみに制限をしています。

こどもセンターに入院されるご家族の方へメッセージをお願いします

お子様が元気になって退院される時、私たちはとてもうれしい気持ちになります。一方で病気やケガで入院が必要になったお子様を見るときはやりきれない気持ちになります。入院という現実と向き合っている気持ちを考えると、そこには計り知れない思いがあると思います。まずは、病気やケガが1日でも早く良くなるように、医師・看護師の他、保育士・薬剤師・栄養士・理学療法士・医療ソーシャルワーカーが連携し退院後の生活を見据えサポートいたします。また『赤鼻のセンセイ』のモチーフとなった副島先生が、お子様の学習面や心のケアをお手伝いしてくれます。こどもにやさしい環境を整えていますので安心して何でもご相談ください。

こどもセンター師長



猪股 里美 (いのまた さとみ)
好きな食べ物：貝類
出身地：埼玉県

～こどもに優しく寄り添い続ける
看護を提供していきます～

受診のお手続きについて

(1) 初診受付時間 (月曜日～**日曜日**)

8:30～14:00

※時間外については救急センター
で対応しています

(2) お問い合わせ

03-6204-6000 (代表)

(**ご予約が無くても受診は可能です**)

(3) その他

当院に関する情報は右記QRコード
をお手持ちのスマートフォンで読み
取りください。

